

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	都市デザイン工学科	夜・通信	—	9	84	93	13	
	建築学科	夜・通信	—	11	43	54	13	
	機械工学科	夜・通信	—	10	36	46	13	
	電気電子システム工学科	夜・通信	—	12	39	51	13	
	電子情報システム工学科	夜・通信	—	13	50	63	13	
	応用化学科	夜・通信	—	12	25	37	13	
	環境工学科	夜・通信	—	12	46	58	13	
	生命工学科	夜・通信	—	10	55	65	13	
ロボティクス&デザイン工学部	ロボット工学科	夜・通信	—	5	20	25	13	
	システムデザイン工学科	夜・通信	—	5	13	18	13	
	空間デザイン学科	夜・通信	—	5	81	86	13	
情報科学部	データサイエンス学科	夜・通信	—	11	52	63	13	
	実世界情報学科	夜・通信	—	11	66	77	13	
	情報知能学科	夜・通信	—	11	40	51	13	
	情報システム学科	夜・通信	—	11	45	56	13	

	情報メディア学科	夜・通信	—	11	58	69	13	
	ネットワークデザイン学科	夜・通信	—	11	57	68	13	
知的財産学部	知的財産学科	夜・通信	—	4	133	137	13	
(備考) 学部等共通科目について ・工学部：「キャリア形成の基礎」、「工学の基礎」、「数理科学と教育」、「その他連携科目」が該当 ・ロボティクス&デザイン工学部：「共通教養科目」、「工学関連科目」が該当 ・情報科学部：「共通科目」、「キャリア科目」 ・知的財産学部：「導入領域」、「教養領域」								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学 WEB サイトに掲載
<https://www.oit.ac.jp/learning/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ	: https://www.josho.ac.jp/introduction/officer.html 1 ページ参照
--------	--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	[現職] 株式会社最高顧問	2024年7月20日～ 2026年7月19日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	[前職] 市役所職員（部長職）	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社顧問	2024年7月20日～ 2026年7月19日	労務担当、 組織運営体制への チェック機能
非常勤	[現職] 株式会社代表取締役	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 株式会社社会社員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
非常勤	[前職] 市議会議員	2024年7月20日～ 2026年7月19日	校友団体との連携
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では、全ての科目において、授業科目の概要・各回の授業内容や予習復習指示・到達目標・評価方法・成績評価基準・教科書や参考書、オフィスアワーなどをシラバスに明記しています。 シラバスは、2025 年 11 月 6 日開催の教学推進委員会で承認されたシラバス作成方針に基づき、各授業担当者が作成しています。作成方針は、教学推進委員会から各学部教務委員会を通じて、全学部・学科に周知徹底を図っています。また、作成されたシラバスは、内容がカリキュラム・ポリシーや体形に即したものであるかを学科長や教務委員が確認しており、授業担当者以外の第三者がチェックする体制を全学的に確立しています。 公表は、学生や教員のみならず進学希望者も広く閲覧できるように 2026 年 2 月 28 日から本学 WEB サイトのシラバス専用ページに掲載しています。	
授業計画書の公表方法	本学 WEB サイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/learning/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学修成果は、あらかじめシラバスに示されている到達目標・評価方法・成績評価基準に基づき判定しています。成績評価基準は全学で統一しているほか、評価方法は学期末の試験（定期試験）のみならず、平常点、レポート、小テスト等を加味した多様な手段で評価し、それらを基に総合的に評価しています。 また、2017 年度より必ず身につけなければ単位修得ができない最低限の基準となる「ミニマム・リクワイアメント」をシラバスに明記し厳格な成績評価の運用を推進しています。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では 2010 年度から GPA 制度を全学部で導入しています。 GPA の算出方法は予め設定しており、本学 WEB サイトでの公表のほか、入学後に配付する学生便覧や履修申請要領に明記しており、学生の履修科目の成績に基づき算出しています。算出方法以下のとおりです。	
成績の評価基準は、成績評価「S」、「A」、「B」、「C」、「D」、「G」を合格とし、所定の単位が与えられ、つぎのとおり、各授業科目の評価点にその単位数を乗じた積の合計を、履修登録科目の総単位数で除して算出し小数点第 2 位まで表記。(小数点第 3 位を四捨五入) GPA は、学業成績簿につぎの3種類の方法で算出した数値を表記し運用。 ①T-GPA(総累計):入学後からこれまで履修登録した科目の成績を基礎数値として算出 ②S-GPA(当該学期):各学期に履修登録した科目の成績のみを基礎数値として算出 ③Y-GPA(当該年度):各年度に履修登録した科目の成績のみを基礎数値として算出 GPA の計算式 (2025 年度以降入学生) $GPA = \frac{4.0 \times \text{成績 S の修得単位数} + 3.0 \times \text{成績 A の修得単位数} + 2.0 \times \text{成績 B の修得単位数} + 1.0 \times \text{成績 C の修得単位数}}{\text{履修登録科目の総単位数(成績が「F」、「*」の科目の単位数も含む)}}$ (2024 年度以前入学生) $GPA = \frac{4.0 \times \text{成績 A の修得単位数} + 3.0 \times \text{成績 B の修得単位数} + 2.0 \times \text{成績 C の修得単位数} + 1.0 \times \text{成績 D の修得単位数}}{\text{履修登録科目の総単位数(成績が「F」、「*」の科目の単位数も含む)}}$ ※GPA の計算対象外の授業科目 ・卒業要件に含むことができない授業科目 ・成績評価が「N」、「G」の可否で評価される授業科目 ・履修辞退した授業科目	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本学 WEB サイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/learning/credit.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学 WEB サイト等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムにより、ディプロマ・ポリシーの達成度を確認できるようになっています。

また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を許可します。

【卒業要件】

大阪工業大学学則第 25 条

卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎 20 単位〔人文社会科学 10 単位、外国語 8 単位（英語 6 単位を含む）、体育 2 単位〕ならびに工学の基礎 26 単位および所属する学科の専門科目 70 単位を含めて合計 124 単位
ロボティクス&デザイン工学部	共通教養科目 20 単位（外国語 8 単位含む）、工学関連科目 17 単位、専門横断科目および専門科目 77 単位、その他（共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目）10 単位を含め、合計 124 単位
情報科学部	イ データサイエンス学科 共通科目 36 単位（人文社会科学 12 単位以上、外国語 8 単位以上、健康・スポーツ科学 2 単位以上を含む）、キャリア科目 2 単位および専門科目 86 単位を含めて合計 124 単位 ロ 実世界情報学科、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科 共通科目 36 単位（人文社会科学 12 単位以上、外国語 8 単位、健康・スポーツ科学 2 単位、総合理学系 12 単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは 14 単位必要）、キャリア科目 2 単位および所属する学科の専門科目 86 単位を含めて合計 124 単位
知的財産学部	導入領域 8 単位、教養領域 20 単位（英語科目 8 単位および一般科目 12 単位を含む）、専門領域 74 単位（必修科目 10 単位および基幹科目 24 単位、知的財産法科目 10 単位、技術&専門科目 14 単位、探究科目 6 単位、研究科目 4 単位を含む）、展開領域 14 単位（実践英語科目 2 単位を含む）を含めて合計 124 単位

大阪工業大学学則第 31 条 第 1 項～第 2 項 抜粋

- 1 工学部、ロボティクス&デザイン工学部および情報科学部については、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて卒業を許可する。
- 2 知的財産学部については、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、達成度確認テストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	本学 WEB サイトに掲載 【卒業認定に関する方針】 https://www.oit.ac.jp/oit/about/philosophy.html 【卒業要件】 https://www.oit.ac.jp/oit/about/rule_oit.html
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪工業大学
設置者名	学校法人常翔学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ https://www.josho.ac.jp/introduction/outline.html
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告(書)	〃

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2025年度事業計画 対象年度:2025年度)
公表方法:本学WEBサイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/oit/about/ebtcd00000002one-att/jigyokeikaku2025.pdf
中長期計画(名称:①大阪工業大学の長期目標、②大阪工業大学の中期目標、③第Ⅰ期中期目標計画 対象年度:①2023~2037年度、②③2023~2027年度)
公表方法:本学WEBサイトに掲載 ①② https://www.oit.ac.jp/oit/about/steps.html#id02 ③ https://www.oit.ac.jp/oit/about/ebtcd00000002one-att/2024daiikki_chukimokuhyou.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学WEBサイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/oit/about/openinfo.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学WEBサイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/oit/about/openinfo.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部、ロボティクス&デザイン工学部、情報科学部、知的財産学部
教育研究上の目的（公表方法： 本学 WEB サイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/oit/about/openinfo.html ）
（概要） 工学部は、地球環境に配慮しながら、専門技術の基礎ならびに人間力を基盤として幅広い協働によるものづくりを实践でき、常に向上を目指す技術者を育成することを目的とする。 ロボティクス&デザイン工学部は、工学的な知識・技術を人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の形成や発展に貢献できる専門職業人を育成することを目的とする。 情報科学部は、情報通信に関する知識や技術を学び、広い視野と倫理観を持って社会や産業活動の情報化とその発展に貢献する健全な技術者あるいは専門職業人を育成することを目的とする。 知的財産学部は、健全な人間性、知的能力および国際感覚を有することにより、21 世紀の産業社会において活躍する者にして、知的財産の保護と活用を推進することに貢献できる職業人を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 本学 WEB サイト ディプロマ・ポリシー https://www.oit.ac.jp/oit/about/philosophy.html 本学 WEB サイト 大阪工業大学学則 https://www.oit.ac.jp/oit/about/rule_oit.html ）
（概要） 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学 WEB サイト等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムにより、ディプロマ・ポリシーの達成度を確認できるようになっています。 また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、教授会の議を経て学長が卒業を許可します。 【卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の具体的な内容】 【工学部】 4 年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。 (1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕 (2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕 (3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術（詳細は学科 DP）〕 (4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕

- (5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。
〔他者との協働による課題解決力〕
- (6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕

【ロボティクス&デザイン工学部】

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通して、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

- (1) 専門分野はもとより、人文・社会・自然科学その他幅広い知識・教養を身につけ、生涯に亘って「考え続ける」ための柔軟で粘り強い思考力の礎を築き行動できる。〔幅広い知識・教養を修得し生涯学習を継続できる思考力〕
- (2) 専門分野に関する体系的な学習内容を含む知識・技術を活用し、具体的な課題解決のプロセスをデザインできる。〔専門分野の知識・技術を活用する課題解決の過程デザイン〕
- (3) ユーザの視点で社会などの課題に対して他者との協働により解決に取り組むことができる。〔他者との協働によるユーザ視点の課題解決力〕
- (4) 技術者としての倫理観、使命感を確立し、生涯に亘り学び続ける必要性を認識し、その姿勢を身につけ行動できる。〔技術者としての倫理観・使命感に基づく行動力〕
- (5) 的確な表現方法・技術を用いたコミュニケーション（英語によるコミュニケーション、視覚効果を考慮したプレゼンテーションなどを含む）によって、自らの考えを伝え、他者の理解や共感を導き出せる。〔相互に理解して共感を導くコミュニケーション力〕

【情報科学部】

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

- (1) 各種システムを開発することのできる専門能力
- ・ 数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびソフトウェア・ハードウェア・システムに関する専門知識を持ち、情報社会のためのシステム開発に活用できる。
〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
 - ・ 豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕
- (2) 自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力
- ・ 自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
 - ・ 責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
 - ・ 新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。〔自主的・継続的に学習する能力〕

【知的財産学部】

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（知的財産学）の学位を授与する。なお、特に優秀な成績を修めた者は、3年間で卒業し、知的財産専門職大学院に進学することができる。

- (1) 人文・社会科学、自然科学を含め、知的財産の創造、保護および活用を行う上で必要となる幅広い教養を身に付けそれらを活用できる。【基礎学力、教養】
- (2) 知的財産法を法体系に基づいて理解し、その理解を知的財産の創造、保護、活用のために応用することができる。【知的財産法の体系的理解力、法的思考力】

- (3) 知的財産の創造、保護および活用のために必要な技術、意匠、ブランド、コンテンツまたはビジネスに関する知識、ならびに知的財産を経済社会で活用するための実践的能力を身に付けそれを実践できる。【技術、意匠、ブランド、コンテンツ、ビジネスに関する理解と実践力】
- (4) 知的財産関連実務で生起する課題を自ら発見でき、その解決のため調査、検討を行うことができる。【問題解決力】
- (5) 知的財産のグローバルな創造、保護および活用を行うための、英語力と国際性を身に付け活動できる。【国際性】

【卒業要件】

大阪工業大学学則第 25 条

卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎 20 単位〔人文社会科学 10 単位、外国語 8 単位(英語 6 単位を含む)、体育 2 単位〕ならびに工学の基礎 26 単位および所属する学科の専門科目 70 単位を含めて合計 124 単位
ロボティクス&デザイン工学部	共通教養科目 20 単位(外国語 8 単位含む)、工学関連科目 17 単位、専門横断科目および専門科目 77 単位、その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)10 単位を含め、合計 124 単位
情報科学部	イ データサイエンス学科 共通科目 36 単位(人文社会科学 12 単位以上、外国語 8 単位以上、健康・スポーツ科学 2 単位以上を含む)、キャリア科目 2 単位および専門科目 86 単位を含めて合計 124 単位 ロ 実世界情報学科、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科 共通科目 36 単位(人文社会科学 12 単位以上、外国語 8 単位、健康・スポーツ科学 2 単位、総合理学系 12 単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは 14 単位必要)、キャリア科目 2 単位および所属する学科の専門科目 86 単位を含めて合計 124 単位
知的財産学部	導入領域 8 単位、教養領域 20 単位(英語科目 8 単位および一般科目 12 単位を含む)、専門領域 74 単位(必修科目 10 単位および基幹科目 24 単位、知的財産法科目 10 単位、技術&専門科目 14 単位、探究科目 6 単位、研究科目 4 単位を含む)、展開領域 14 単位(実践英語科目 2 単位を含む)を含めて合計 124 単位

大阪工業大学学則第 31 条 第 1 項～第 2 項 抜粋

- 1 工学部、ロボティクス&デザイン工学部および情報科学部については、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可する。
- 2 知的財産学部については、第 25 条に定める単位を修得し、かつ、達成度確認テストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：本学 WEB サイト カリキュラムポリシー
<https://www.oit.ac.jp/oit/about/philosophy.html>)

（概要）

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定された卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた内容となっています。各学部等の教育課程は、カリキュラムポリシーに即し、専門科目を1年次から配置して教養科目と混在させる“くさび形”の形態を取り入れるとともに、必修科目・選択必修科目、講義・演習・実験等を適切に配置し実践力を養成する体系的な教育課程となっています。

【工学部】

工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

- 1) 人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。
- 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
- 3) 必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を徹底して保証する。
- 4) 実験・実習・探究演習（Project Based Learning、PBL）科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。
- 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命観ならびに倫理観を養う。
- 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。

【ロボティクス&デザイン工学部】

ロボティクス&デザイン工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下の方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

- 1) 人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産等に関する科目によって、技術者・デザイナーに求められる幅広い教養を養う。その前提として、日本語リテラシー（理解力・表現力）に関わる能力を高める。
- 2) 継続的な英語教育によって、英語による基礎的コミュニケーション能力を養う。
- 3) 必修・選択（選択必修を含む）科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。
- 4) 実験・実習・探究演習（Problem-Based Learning）の科目によって、自発的・継続的に学習する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力を養う。
- 5) 技術者倫理に関する科目等によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。
- 6) 学士課程教育の集大成となる卒業研究までの学修の積み重ねにより、自らの専門分野の特性を他分野の特性理解によって正しく把握し、協働によって課題を解決できる能力を養う。また、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等と目的・目標を完遂する行動特性を養う。

【情報科学部】

情報科学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

1) 豊かな人間性を養う共通教育

総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。また、キャリアデザインに関する教育により、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。

2) 実践的な情報技術者を育成する専門教育

a) 情報科学の基礎となる「数理科学」では、情報数学、確率・統計などの数理科学的能力を養い、学科共通的な科目を含む「専門基礎」では専門科目を体系的に学ぶ上で必要となる基礎的能力を育成する。

b) 「データサイエンス」、「実世界情報」、「情報知能」、「情報システム」、「情報メディア」、「ネットワークデザイン」の各分野の「基幹科目」、「応用科目」により専門性を高め、さらに「演習科目」での学修を通して専門分野を統合してシステムの設計、実装力と問題解決力を養う。

3) 4年次ではそれぞれの学科で学んだ内容の集大成として「卒業研究」を行い、論理的思考力、コミュニケーションやプレゼンテーションの総合的能力の育成を図るとともに、社会における情報技術の役割や情報技術者の責任などについても理解を深める。

【知的財産学部】

知的財産学部ディプロマ・ポリシーに示した能力を備えた人材を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- 1) 導入領域および教養領域、展開領域、連携領域における諸科目を通じて、知的財産に関わる専門職業人に求められる幅広い教養と社会人基礎力を身に付ける。
- 2) 専門領域の基幹科目と知的財産法科目および技術&専門科目を通じて、知的財産法を体系的に理解し、その理解を知的財産の創造、保護、活用のために応用する能力を身に付ける。
- 3) 専門領域の基幹科目、技術&専門科目、探求科目および研究科目を通じて、知的財産の創造、保護および活用のために必要な技術、意匠、ブランド、コンテンツまたはビジネスに関する知識、ならびに数理・データサイエンスをもとに経済社会の現状を捉える手法を修得することで知的財産を経済社会で活用するための実践的能力を身に付ける。
- 4) 専門領域の探求科目と研究科目を通じて、知的財産関連実務において生起する諸課題を自ら発見し、その解決のための調査、検討を行う能力を身に付ける。
- 5) 教養領域および展開領域の実践英語科目、専門領域の国際法・比較法関連科目を通じて、知的財産実務で活用できる英語力と国際性を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

本学 WEB サイト アドミッション・ポリシー

<https://www.oit.ac.jp/oit/about/policy/>)

（概要）

- ・本学は建学の精神及び「教育の理念と方針」に基づき、アドミッション・ポリシー及び求める人物像を定めている。また、「学校法人常翔学園行動規範」には、アドミッション・ポリシーに基づいた公正な入学者選考を行うため、受験生やその保護者、受験生の所属する学校等に対して正確な情報を積極的に提供すると規定している。
- ・全学のアドミッション・ポリシーを基に、各学部・学科においても各教育・研究分野に沿ったアドミッション・ポリシー及び求める人物像を制定している。
- ・受入れの方針は、学生募集要項等の印刷物、本学 WEB サイトで広く公表している。
- ・受験生に対しては、大学案内等の印刷物、オープンキャンパスや教員による高校への出張講義等のイベントを通じて、各学部・学科における学びや将来の進路、教育研究に組む学生等を紹介し、アドミッション・ポリシーを体現した事例としてわかりやすく提示している。高校の3年生クラス担任や進路指導担当教員に対しては、大学主催の入試説明会を実施しているほか、職員による高校訪問を行っている。これらの活動を通じて受入れ方針や入試要項を伝えることはもちろん、高校現場の現状を認知し、本学における学生募集活動の考え方や方針を改めて確認するきっかけとも捉えている。加えて、高校現場が求めている情報提供のため入試部内で情報共有する機会を設けるなど学生募集力の更なる向上にも継続して取り組んでいる。

②教育研究上の基本組織に関すること

4. FD ニュースの発行

大阪工業大学 FD 委員会が発行。大学の FD 活動に関する記事を掲載し、教職員を中心に配付、本学 WEB サイトにも公開している。

【第 25 号】

発行日：2026 年 3 月 31 日（火）

5. 学部独自の活動

・工学部

○教員相互の授業参観を前期授業において実施。

・ロボティクス&デザイン工学部

○教員相互の授業参観を前期授業において実施。

○FD フォーラムを実施。

開催日： 2025 年 9 月 16 日（火）開催

テーマ： 「新入生の物理・数学の入口基礎学力と教育 DX の推進『オンデマンド授業における工夫・実践例』」

・情報科学部

○教員相互の授業参観を前期授業において実施。

○情報科学部第 1 回 FD フォーラムを実施。

開催日： 2025 年 11 月 19 日（水）

テーマ： 第一部 ゲームサイエンスコースにおける「ゲームを介した創造性を育成する教育プログラム」について
第二部 「基礎学力獲得のために教員が提供できることは何だろうか？」

・知的財産学部

○教員相互の授業参観を前期授業において実施

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	900 人	971 人	107.9%	3680 人	3876 人	105.3%	80 人	4 人
ロボティクス &デザイン工 学部事	280 人	286 人	102.1%	1150 人	1224 人	106.4%	30 人	1 人
情報科学部	460 人	475 人	103.3%	1880 人	1913 人	101.8%	40 人	1 人
知的財産学部	140 人	156 人	111.4%	580 人	606 人	104.5%	20 人	0 人
合計	1780 人	1888 人	106.1%	7290 人	7619 人	104.5%	170 人	6 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名

	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	811 人 (100%)	198 人 (24%)	605 人 (75%)	8 人 (1%)
ロボティクス&デザイン工学部	268 人 (100%)	57 人 (21%)	207 人 (77%)	4 人 (2%)
情報科学部	400 人 (100%)	55 人 (14%)	337 人 (84%)	8 人 (2%)
知的財産学部	137 人 (100%)	26 人 (19%)	106 人 (77%)	5 人 (4%)
工学研究科 (博士前期)	173 人 (100%)	4 人 (2%)	169 人 (98%)	0 人 (0%)
ロボティクス&デザイン工学研究科 (博士前期)	43 人 (100%)	1 人 (2%)	42 人 (98%)	0 人 (0%)
情報科学研究科 (博士前期)	40 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)
知的財産研究科	40 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (100%)	0 人 (0%)
工学研究科 (博士後期)	0 人 (0%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
ロボティクス&デザイン工学研究科 (博士後期)	0 人 (0%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
情報科学研究科 (博士後期)	0 人 (0%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	1912 人 (100%)	341 人 (18%)	1546 人 (81%)	25 人 (1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 工一大阪市役所 8、積水ハウス(株)3、近畿日本鉄道(株)5、(株)大林組 4、大和ハウス工業(株)3、三菱電機(株)1・大塚製薬(株)1 など。R&D 工一積水ハウス(株)6、ダイハツ工業(株)3、住友林業(株)2、東海旅客鉄道(株) (J R 東海) 2、清水建設(株)1、ダイキン工業(株)1 など。情報科一(株)NTT データ関西 12、三菱電機ソフトウェア(株)7、Sky(株)3、関西電力(株)2、日本放送協会 (NHK) 1、三菱電機(株)1、(株)セガ 1、(株)カプコン 1 など。知的財産一積水ハウス(株)・ダイハツ工業(株)・マツダ(株)・アイリスオーヤマ(株)・大阪シティ信用金庫・大阪府警察本部 各 1 など。				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	907 人 (100%)	656 人 (72.3%)	175 人 (19.3%)	76 人 (8.4%)	0 人 (0%)
ロボティクス&デザイン工学部	300 人 (100%)	240 人 (80.0%)	36 人 (12.0%)	24 人 (8.0%)	0 人 (0%)
情報科学部	433 人 (100%)	326 人 (75.3%)	53 人 (12.2%)	54 人 (12.5%)	0 人 (0%)
知的財産学部	149 人 (100%)	120 人 (80.5%)	20 人 (13.4%)	9 人 (6.0%)	0 人 (0%)
合計	1789 人 (100%)	1342 人 (75.0%)	284 人 (15.9%)	163 人 (9.1%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学では、全ての科目において、授業科目の概要・各回の授業内容や予習復習指示・到達目標・評価方法・成績評価基準・教科書や参考書、オフィスアワーなどをシラバスに明記しています。シラバスは、教学推進委員会で承認されたシラバス作成方針に基づき、各授業担当者が作成しています。作成方針は、教学推進委員会から各学部教務委員会を通じて、全学部・学科に周知徹底を図っています。また、作成されたシラバスは、内容がカリキュラム・ポリシーや体系に即したものとなっているかを学科長や教務委員が確認しており、授業担当者以外の第三者がチェックする体制を全学的に確立しています。 公表は、学生や教員のみならず進学希望者も広く閲覧できるように本学 WEB サイトのシラバス専用ページに掲載しています。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業科目の学修成果は、あらかじめシラバスに示されている到達目標・評価方法・成績評価基準に基づき判定しています。成績評価基準は全学で統一しているほか、評価方法は学期末の試験（定期試験）のみならず、平常点、レポート、小テスト等を加味した多様な手段で評価し、それらを基に総合的に評価しています。 2017 年度より必ず身につけなければ単位修得ができない最低限の基準となる「ミニマム・リクワイアメント」をシラバスに明記し厳格な成績評価の運用を推進しています。 学修成果は、各期の成績発表日に Web 公開しています。 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の「教育の理念と方針」に基づき策定し、卒業を認定するうえで、授業や卒業研究を通じて学生の方が身に付けるべき力を具体的に示しています。この方針は、本学 WEB サイト等で公開しているほか、学生の方には本学独自の学修成果可視化システムにより、ディプロマ・ポリシーの達成度を確認できるようになっています。 また、卒業の要件は学則第 25 条・31 条に定めるほか、学科ごとの詳細を各学部履修規定に定め、所定の修得単位数等を踏まえ、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可します。
--

学業成績の評価基準および表示は以下のとおりです。

(2025 年度以降入学生)

表示	N	G	S	A	B	C	F	*
点数等	認定	合格	100-90	89-80	79-70	69-60	59-0	評価不能
合否		合格					不合格	

(2024 年度以前入学生)

表示	N	G	A	B	C	D	F	*
点数等	認定	合格	100-90	89-80	79-70	69-60	59-0	評価不能
合否		合格					不合格	

(注) ①定期試験等非受験、レポート未提出および授業に出席していないなどにより、成績の評価ができない場合は「*」と表示されます。

②点数等で評価できない、演習等一部授業科目の合格は「G」で表記する場合があります。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	都市デザイン工学科	124 単位	有	44 単位
	建築学科	124 単位	有	44 単位
	機械工学科	124 単位	有	44 単位
	電気電子システム工学科	124 単位	有	44 単位
	電子情報システム工学科	124 単位	有	44 単位
	応用化学科	124 単位	有	44 単位
	環境工学科	124 単位	有	44 単位
	生命工学科	124 単位	有	44 単位
ロボティクス& デザイン工学部	ロボット工学科	124 単位	有	44 単位 (2022 年度以降入学生)
				48 単位 (2021 年度以前入学生)
	システムデザイン工学科	124 単位	有	44 単位 (2022 年度以降入学生)
				48 単位 (2021 年度以前入学生)
	空間デザイン学科	124 単位	有	44 単位 (2022 年度以降入学生)
				48 単位 (2021 年度以前入学生)
情報科学部	データサイエンス学科	124 単位	有	44 単位
	実世界情報学科	124 単位	有	44 単位
	情報知能学科	124 単位	有	44 単位
	情報システム学科	124 単位	有	44 単位
	情報メディア学科	124 単位	有	44 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： 本学 WEB サイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/learning/credit.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 本学 WEB サイトに掲載 ①学長表彰 (https://www.oit.ac.jp/gakusei/honor_provost.html)		

	②学生の授業満足度[FD NEWS に掲載] (https://www.oit.ac.jp/learning/fd.html)
--	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学 WEB サイトに掲載 https://www.oit.ac.jp/oit/about/openinfo.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること
2020～2026 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,290,000 円	－円	220,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：100,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,290,000 円	－円	320,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：200,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
ロボティクス&デザイン工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,290,000 円	－円	270,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：150,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,290,000 円	－円	420,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：300,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
情報科学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,290,000 円	－円	220,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：100,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,290,000 円	－円	320,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：200,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
知的財産学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,020,000 円	－円	170,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：50,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,020,000 円	－円	270,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：150,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]

2017～2019 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	220,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：100,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,260,000 円	－円	320,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：200,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
ロボティクス&デザイン工学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	270,000 円	1 年目納入

デザイン工 学部					(その他) ・教育充実費：150,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,260,000 円	－円	420,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：300,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
情報科学 部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,260,000 円	－円	220,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：100,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,260,000 円	－円	320,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：200,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
知的財産 学部	全学科	－円	250,000 円	－円	入学時納入
		1,000,000 円	－円	170,000 円	1 年目納入 (その他) ・教育充実費：50,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]
		1,000,000 円	－円	270,000 円	2 年目以降納入 (その他) ・教育充実費：150,000 円 ・在籍料：120,000 円[休学時]

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、各学部・学科とも少人数のゼミ形式や演習形式による授業科目を実施し、学修に必要とされる様々な基礎的要素を育むことで学生を支援しています。低学年次では基礎ゼミナール等の担当教員、高学年次では3年次ゼミや卒業研究ゼミの担当教員が担任となることで、学生と常にコミュニケーションを取れるきめ細かい修学支援体制を構築しています。 また、専門科目を学ぶ上で必要となる基礎学力の補完を目的とした基礎力向上講座を教育センターで開講しています。同講座では、1年次配当の数学・物理の正課授業科目と連携し、授業内容に沿った問題演習を行うことで基礎学力の定着を図り、専門科目の学修へと繋げています。教育センターでは、同講座の開講のほか、学生の皆さんの疑問や不安に対し、個人（グループ可）ごとに応じる個別学習相談も実施しており、専属教員および学生チューターが待機し、訪れる学生のレベルに合わせた学習サポートを行っています。 あわせて、本学では従来の修得単位数以外に、ディプロマ・ポリシー達成状況や分野別達成状況といった学修成果を可視化する独自システム（DSシステム）を構築しています。毎期末において、学生はこのシステムを活用し自身の学修状況を振り返り、次期の学修目標・計画を設定し、教員は面談等を通じた修学指導を全学生に対して実施する取り組みを順次進め、さらに学業成績不振学生への手厚い修学指導を行っており、教員と学生との二者面談に加え、成績の状況に応じて、保証人を含めた三者面談を毎期末の成績発表後に実施しています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、就職支援も教育の一環として捉えており、全学的な取り組みが特長です。卒業研究指導教員、キャリア支援担当教員、キャリア支援部職員が一体となって学生一人ひとりの就職活動をサポートする体制により毎年高い実績と満足度につながっています。各学科に就職担当教員とキャリア支援部職員を配置し、きめ細やかにフォローする体制を確立

し、進路希望の把握から進路決定までの完全な個別サポートに力を入れています。また、学生自身が主体的に進路を考え、選択する意思をサポートするため1，2年生にはキャリア形成支援の授業科目を開講しています。グループワーク中心の学生参加型授業を展開しつつ、コミュニケーション能力の向上に取り組んでいます。

3年生にはインターンシップ制度も整えており、自己理解、進路先理解、啓発的経験というキャリア形成のステップを経て学生が進路選択に向かう流れを実現しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、全キャンパスに学生相談室を設置し臨床心理士資格を持った心理カウンセラーが学生から悩み事等の相談を受け付け、学生生活のサポートをしています。さらに各学科の専任教員が学生担当委員として各種相談にあたっています。その他、保健室において心療内科医による定期相談、また、学生課・教務課・学部事務室において各職員が随時学生からの相談に応じており、学生が一人で思い悩むことのないように支援を行っています。

全キャンパスの保健室では、定期相談を設け、学校医による健康全般に関する相談日、心療内科医による心身の相談日を学生へ周知し、心身の健康等の支援を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 WEB サイトに掲載

<https://www.oit.ac.jp/oit/about/openinfo.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。